

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ニッセイK棟	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県安城市和泉町井ノ上1番1 他17筆	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,500時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年4月 予定	評価の実施日	2023年2月24日
敷地面積	6,070.69 m <sup>2</sup>	作成者	一瀬 茂弘
建築面積	4,872.36 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月6日
延床面積	4,654.00 m <sup>2</sup>	確認者	一瀬 茂弘



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.3**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

機能性	N.A.
耐用性	3.0
対応性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.7

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.0

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

建物外皮の	N.A.
自然エネ	N.A.
設備システ	N.A.
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

地球温暖化	N.A.
地域環境	2.7
周辺環境	3.0

### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	N.A.	③敷地内の緑化	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	27.2 %
②資源の有効活用	3.1	④地域材の活用	1.0	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
<p>各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。</p> <p>①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮</p> <p>②資源の有効活用 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減</p> <p>③敷地内の緑化 Q-3 1 生物環境の保全と創出</p>		<p>外構緑化指数 = <math>\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100</math></p> <p>建物緑化指数 = <math>\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100</math></p>		<p>みんなの環境活動を応援しています</p>	

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
ニッセイK棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 パリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
<b>3.1 空間のゆとり</b>				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高:3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		[壁長さ比率:0.06]<0.1	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57	-	-	-	1.7
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-	-	-	-	2.9
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	3.0
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>				1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	2.9
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>			大便器大洗浄水量:4.8L、小便器小洗浄水量:0.9L	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	2.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	-	-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自	外装材+LGS+内装材	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	2.8
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.5	2.7	0.50	-	-	-	2.7
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				0.2	2.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	1.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	
<b>② 資源の有効活用</b>			3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	
<b>③ 敷地内の緑化</b>			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	
<b>④ 地域材の活用</b>			1.0
		(評価ポイント)	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ニッセイK棟

計画上の配慮事項	
総合	対応性・更新性を高めた計画としている。
Q1 室内環境	建物用途が工場単一のため、評価対象外とする。
Q2 サービス性能	階高のゆとりや空間の形状・自由さに配慮することにより、対応性・更新性を高めている。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用している。
LR2 資源・マテリアル	外装材と内装材が容易に分別可能となるように配慮している。
LR3 敷地外環境	風通しに配慮した計画としている。
その他	特になし。